

政策番号	6	政策分野	文化
------	---	------	----

基本方針 暮らしのなかに文化芸術がいきいきと息づき、ひとびとの豊かな感性が育まれるとともに、そこで生まれる活力やにぎわいが、まちの活性化につながることをめざして、文化芸術とまちづくりを一体化させた取組を促進する。このような取組を通じて、京都を魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生する。

担当局	文化市民局
-----	-------

共管局	
-----	--

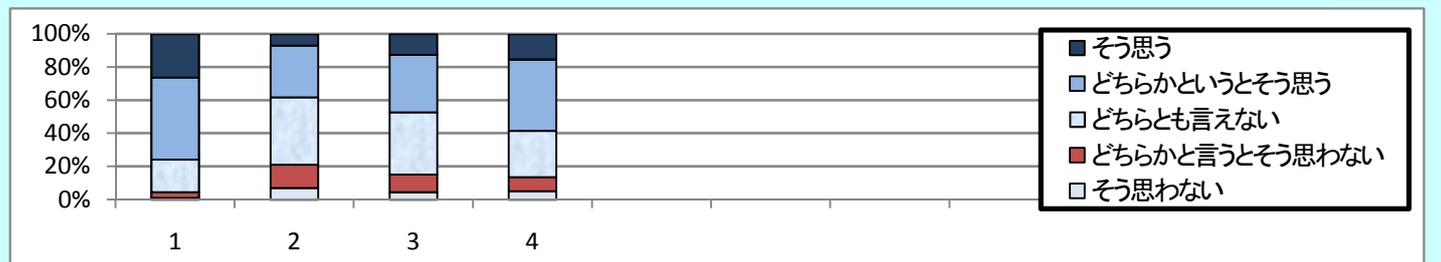
政策の評価

1 客観指標評価

指標名	23年度 評価値	32年度 目標値	年度	年度	23年度評価				
					前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1 市民ふれあいステージ出演申込数(件)	103	-	-	-	92	103	100	103.0%	a
2 京都市芸術文化特別奨励制度応募者数(件)	77	-	-	-	85	77	110	70.0%	d
3 文化施設の年間入場者数(人)	3,047,441	-	-	-	3,470,802	3,047,441	3,470,802	87.8%	d
4 本市が指定、登録した文化財の数(件)	7	-	-	-	9	7	9	77.7%	b
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	-
客観指標総合評価					c				

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		年度	年度	23年度
1	京都では、文化芸術にかかわる活動が盛んである。	-	-	a
2	市民の生活に文化芸術がとけ込んでいる。	-	-	c
3	文化・芸術活動によって、京都のまち全体が活気づいている。	-	-	b
4	文化財が社会全体で大切にされ、地域の活性化にもつながっている。	-	-	b
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
市民生活実感調査総合評価		b		



2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

年度		年度		23年度	
順位	%	順位	%	順位	%
-	-	-	-	15	14.5%

3 総合評価

C	政策の目的がそこそこ達成されている	年度	-
<p>【客観指標】・市民ふれあいステージ出演申込数は、市民の文化活動の発表の場として定着し、過去5年間で最高値に達したため、a評価となった。</p> <p>・若手芸術家等の育成を目的とする芸術文化特別奨励制度の応募者数及び文化施設の年間入場者数は、例年並みであるが、過去5年間の最高値には届かなかったため、d評価となった。いずれもPR等の利用促進策を図る余地がうかがわれる。</p> <p>・文化財の指定・登録数は、例年並みであるが、指定・登録に必要な調査に多額の経費が掛かること等から、過去5年間の最高値には届かなかったため、b評価となった。</p> <p>【市民の実感】・多数回答を総合すると、文化芸術の市民生活への浸透度以上に、文化芸術都市・京都のイメージが強いことがうかがわれる。</p> <p>【総括】・市民の実感が客観指標を上回り、伝統芸能の拠点や文化財の集積など、伝統文化が根付く京都の強みが反映された結果となった。伝統の継承と共に、新たな創造活動の実現を図る余地がうかがわれる。</p> <p>・こうしたことを総合的に勘案し、この政策の目的は、そこそこ達成されていると評価する。</p>		年度	-
		年度	-

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価>

施策番号	施策名	評価結果			参照ページ
				23	
0601	すべての市民が京都のまちを支え、かつ誇りにできる文化芸術創造のまちづくり	-	-	C	89
0602	歴史に培われた和の文化の継承と新たな創造活動の支援	-	-	B	91
0603	世界的な交流を視野に入れた文化芸術環境の向上	-	-	C	93
0604	かけがえのない文化財の保護、活用と伝承	-	-	A	95

<今後の方向性>

・平成15年にスタートした「国家戦略としての京都創生」の取組は、景観・観光と共に文化を柱とし、文化財の保存・継承等に大きな効果をもたらしたとされることから、これからも国に対して、更なる取組をより一層強く求めていくこととしている。

・平成23年3月に策定した「岡崎地域活性化ビジョン」では、京都会館、美術館その他ミュージアム群が集まる岡崎地域について、各施設の機能向上により、一流の舞台・芸術・催しが繰り広げられる「世界に冠たる文化・交流ゾーン」としての将来像を目指すこととしている。

政策名	6	文化
指標名	市民ふれあいステージ出演申込数（件）	
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先
		366-0033
1 指標の説明		
市民ふれあいステージ（市民に文化活動の場を提供し、多くの方が気軽に文化芸術に触れる機会を創出するため、市民参加型の催しとして、毎年10月に開催）への出演申込数		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
文化芸術が市民の日常生活の中に溶け込んでいることを示す指標		出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値
	103	-
根拠 平成27年度～平成31年度実績の最高値を目指す		
	前回数値 21年度	最新数値 22年度
	92	103
数値	推移	単年度目標値
	11件増加	数値
		100
		根拠
		過去5年間の最高値（平成20年度）
		達成度
		103.0%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
		達成度
		根拠
数値		
		備考
		H17 83件, H18 82件, H19 90件, H20 100件, H21 92件
5 評価基準		6 基準説明
最新の数値が、過去5年間の a：最高値以上 b：最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間 c：上中間と平均値の間 d：平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間 e：下中間以下		申込数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。 最高値：100（平成20年度） 平均値：89 最低値：82（平成18年度）
7 評価結果		
		23
-	-	a

指標名	京都市芸術文化特別奨励制度応募者数（件）	
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先
		366-0033
1 指標の説明		
京都市芸術文化特別奨励制度（将来に向けて積極的な芸術文化活動を行う、若い芸術家等の育成を目的として奨励金を交付）への応募者数		
2 指標の意味		3 算出方法・出典等
文化芸術の新たな創造活動が活発に行われていることを示す指標		出典：事業担当課調べ
4 数値		
10年後の（平成32年度）目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値
	77	-
根拠 平成27年度～平成31年度実績の最高値を目指す		
	前回数値 21年度	最新数値 22年度
	85	77
数値	推移	単年度目標値
	8件減	数値
		110
		根拠
		過去5年間の最高値（平成19年度）
		達成度
		70.0%
	全国順位	中長期目標
	数値	目標年次
		達成度
		根拠
数値		
		備考
		H17 70件, H18 76件, H19 110件, H20 70件, H21 85件
5 評価基準		6 基準説明
最新の数値が、過去5年間の a：最高値以上 b：最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間 c：上中間と平均値の間 d：平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間 e：下中間以下		応募者数は毎年変動するものであり、一定安定的な数字と比較するため、過去5年間の数値をもとに、基準を設定した。 最高値：110（平成19年度） 平均値：82 最低値：70（平成17・20年度）
7 評価結果		
		23
-	-	d

政策名	6	文化	
指標名	文化施設の年間入場者数（人）		
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先	
		3 6 6 - 0 0 3 3	
1 指標の説明			
文化施設（動物園，美術館，二条城，無鄰菴）の利用者数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
幅広い市民が多彩な文化芸術に親しんでいることを示す指標		出典：事業担当課調べ	
4 数値			
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 3,047,441	平成32年度目標値 -	根拠 平成27年度～平成31年度実績の最高値を目指す
	前回数値 21年度 3,470,802	最新数値 22年度 3,047,441	推移 423,361人減
数値	3,470,802	3,047,441	423,361人減
			単年度目標値 根拠 過去5年間の最高値（平成21年度）
			達成度 87.8%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次 達成度 根拠
数値			
5 評価基準		6 基準説明	
最新の数値が，過去5年間の a：最高値以上 b：最高値と上中間（最高値と平均値の間）の間 c：上中間と平均値の間 d：平均値と下中間（平均値と最低値の間）の間 e：下中間以下		利用者数は毎年変動するものであり，一定安定的な数字と比較するため，過去5年間の数値をもとに，基準を設定した。 最高値：3,470,802（平成21年度） 平均値：3,090,672 最低値：2,892,436（平成20年度）	
7 評価結果			23
		-	d

指標名	本市が指定，登録した文化財の数（件）		
担当部室	文化芸術都市推進室	連絡先	
		7 6 1 - 7 7 9 9	
1 指標の説明			
本市が指定，登録した文化財の数			
2 指標の意味		3 算出方法・出典等	
かけがえのない文化財が保護されていることを示す指標		算出方法：事業担当課調べ 出典：京都市教育委員会告示	
4 数値			
10年後の（平成32年度） 目標値	平成23年度評価値 7	平成32年度目標値 -	根拠 平成27年度～平成31年度の指定，登録文化財件数の最高値を目指す
	前回数値 21年度 9	最新数値 22年度 7	推移 2件減
数値	9	7	2件減
			単年度目標値 根拠 過去5年間の最高数値（平成21年度）
			達成度 77.7%
	全国順位	中長期目標	
		数値	目標年次 達成度 根拠
数値			
5 評価基準		6 基準説明	
最新の数値が過去5年間の a：最高値以上 b：最高値と平均値の間 c：平均値 d：最低値と平均値の間 e：最低値以下		指定・登録件数は毎年変動するものであり，一定の数字と比較する。過去5年間の数値をもとに，基準値を設定した。 最高値：9件（平成21年） 平均値：6件 最低値：4件（平成18,20年）	
7 評価結果			23
		-	b